

気管気管支狭窄に対する気道拡張術/ステント留置術施行症例における周術期合併症および長期予後への影響の検討

1. 研究の対象

2010年1月～2020年12月に当院で気道狭窄に対して気道拡張術あるいはステント留置術施行を受けられた方

2. 研究目的・方法

将来的な気道狭窄に対する治療方針決定や予後予測などより、治療成績の向上を目的としています。研究デザインとしては後ろ向きコホート研究（特定の性質や条件を満たした人の集団のことをコホートといい、このような集団を対象にして、診療記録などの情報を基に、過去の出来事に関する調査を行う研究法のこと）で行い、年齢、性別、原疾患、狭窄程度、術前後呼吸機能検査、術前後全身状態（Performance Status : PS）、運動機能と呼吸困難から見た重症度評価基準（Hugh-Jones 分類）、手技内容、手術時間、出血量、周術期合併症および予後等の確認は、カルテ上によって行います。研究実施期間は臨床研究倫理委員会承認後から西暦 2020 年 12 月 31 日までです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、抗がん剤治療の治療歴、副作用等の発生状況、カルテ番号 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

地方独立行政法人大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター

研究責任者 呼吸器外科 水口 真二郎

〒534-0021

大阪市都島区都島本通2-13-22

電話 06-6929-1221（代表）